



JSCCeNewsletter

—News & Communications—

0001

2019.11.28.Thu

一般社団法人
日本臨床化学会
<http://jscc-jp.gr.jp/>

会員の皆様へ

秋も深まり、朝晩の寒暖差が大きくなってきています。長く暑い時期が続き、痛ましい災害も多い夏～中秋でしたが、もう冬は間近です。まだ、災害からの復興には至っておらず、今も苦労されている方が多数いらっしゃることを、心を痛めております。一刻も早い生活基盤の復旧と日常生活が戻りますことをお祈り致しております。

一方、新天皇陛下の御即位をお祝いする行事やラグビーW杯のベストエイトなど、明るいニュースも多くありました。

年次学術集会在仙台で眞野教授を年会長として盛会裡に終了致しましたことも喜ばしい出来事でした。会期中に議論した結果たどりついた結論の一つを実行します。それは、機関誌である「臨床化学」は年に4回の発行のため、より早くお伝えしたいことや最新情報に関しましては別の情報手段を考えておりましたが、このたびニュースレターとしてメール配信することと致しました。「臨床化学」の掲載内容のうち、一部の情報はニュースレターでの配信にするなど、会員の皆様にとって最適の伝達手段を考えながら、場合によっては双方向性の情報交換もできるよう、ホームページも活用しながら運営していきたいと考えております。こうした方がよいとか、こんな情報がほしいなどのアイデアやご意見もウェルカムですので、皆が待ち焦がれるようなニュースレターに、協力して作り上げていければと願っております。

まずは創刊号を楽しんでいただければ幸いです。

2019年11月



代表理事 前川 真人

ALP・LDの測定法変更に向けて、現状報告

代表理事 前川 真人(浜松医科大学 臨床検査医学講座)

血清酵素活性測定は、測定条件(温度、pH、緩衝液、基質など)によって活性値が異なることから試薬間差が大きく、施設間の互換性が乏しい検査項目の代表格でしたが、1989年から血清酵素活性測定の学会勧告法が設定され、常用参照標準物質が開発されたため、標準化が可能となりました。すなわち、血清酵素活性は、全国どこで測定してもほぼ同等の検査結果が得られるまでになりました。しかしながら、時は流れ、臨床的意義や国際臨床化学連合(IFCC)の一員として活動をしていく中で、日本固有の測定法を使用しているALP、LD、AST、ALTの4項目の測定法のうち、ガラパゴス化した感のあるALP、LDの活性測定法を見直す動きが生まれてきました。多大な労力を要する事業であ

るだけに反対意見も多々ありましたが、これは前進であると判断し、変更する機は熟したと考えております。

実際、40以上の職能団体と学術団体からパブリックコメントと多くの賛同という回答をいただきました。そこで、2020年4月から変更を開始し、1年間で完全移行を目指す方針を立てました。現在はそれに向けて、特に測定法変更に関係が深い日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査薬協会、日本衛生検査所協会にも協力をお願いしております。また、平行してプロジェクトでは検査担当者・一般医家向けのリーフレットと説明書の作成が進められました。

本ニュースレターでは、説明資料が完成し、JSCCのホームページに掲載しましたので、会員の方々に是非お知らせしたいと思います*。これからの約半年、臨床検査関連団体の方々の協力をいただきつつ、臨床医への説明、地域での連携も含め、ご理解とご協力をお願いし、臨床検査従事者のONE TEAMとなって円滑に移行できますことを切に願っております。

* <http://www.jscc-jp.gr.jp/>

第60回 日本臨床化学会年次学術集会

<http://jscc2020.umin.jp/>

テーマ 臨床化学を楽しむ!

会 期 2020年10月30日(金)～11月1日(日)

会 場 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
(〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6)

集 会 長 三井田 孝(順天堂大学大学院医学研究科 臨床病態検査医学 教授)

副集会長 山田 俊幸(自治医科大学 臨床検査医学 教授)

集會事務局

順天堂大学大学院医学研究科 臨床病態検査医学
〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1(第1谷口ビル4階)

運営事務局

株式会社サンプラネット メディカルコンベンション事業部
〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-10 住友成泉小石川ビル6F
TEL:03-5940-2614 FAX:03-3942-6396 E-mail:jscc60@sunpla-mcv.com

演題登録期間

2020年

3月3日(火)～
4月30日(木)

2019年度日本臨床化学会 学会賞

2019年度の受賞者をお知らせします。

学術賞：城野博史(熊本大学病院)

「新規効果予測マーカーCYLDの分子診断を基軸とした新たながん分子標的治療の確立」

奨励賞：岩泉守哉(浜松医科大学)

「DNA ミスマッチ修復機構からみた大腸癌治療の感受性変化」

後藤和人(九州大学医学研究院)

「樹状細胞の成熟化におけるミトコンドリア p32 の役割」

技術賞：東ソー株式会社

「オートタキシン測定による慢性肝疾患の検査方法および検査薬」

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

「血漿検体を用いたEGFR 遺伝子変異検査の技術と運用」

論文賞：末廣 寛(山口大学大学院医学系研究科)

「Highly sensitive faecal DNA testing of TWIST1 methylation in combination with faecal immunochemical test for haemoglobin is a promising marker for detection of colorectal neoplasia」

学会賞協賛企業：アークレイマーケティング株式会社

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

(敬称略)



2019年度 Young Investigator Award (YIA)

2019年度の受賞者をお知らせします。

北海道支部：鈴木 拓貴(北海道大学大学院保健科学院)

東北支部：高濱 祐太(山形大学医学部附属病院)

関東支部：山口奈摘美(埼玉県立大学大学院)

東海・北陸支部：太田 悠介(浜松医科大学医学部附属病院)

近畿支部：谷口 純平(大阪大学大学院医学系研究科)

中国支部：大國 翼(島根大学医学部附属病院)

四国支部：徳原 康哲(愛媛県立医療技術大学)

九州支部：吉富 史美(久留米大学病院)

(敬称略)

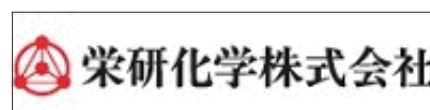


ニュースレターへの自由闊達な投稿を歓迎します！

JSCC eNewsletterでは、臨床化学に関するニュースやトピックス、連絡事項、質問、ご意見、ご要望など、会員間のコミュニケーションを自由闊達に行って頂く場を提供します。

公序良俗に反する内容や、明らかにミスリードする内容でなければ、基本的に掲載したいと思います。

先ずはお気軽に右記へご投稿(ご相談)ください。E-mail jssc@mc-i.co.jp(日本臨床化学会事務局)



編集・発行：一般社団法人 日本臨床化学会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-10-605

(株)エム・シー・アイ内 一般社団法人 日本臨床化学会 事務局

TEL: 03-3354-2006 FAX: 03-3354-2017 E-mail: jssc@mc-i.co.jp

<http://jssc-jp.gr.jp/>